

要旨

本論文で筆者は日本語における接尾辞「一調, 一風, 一流」について書いたものである。このテーマを選んだ理由は日本語の接尾辞「一調, 一風, 一流」にはどのような構造と意味を持つのか、それぞれの接尾辞が置き換えることができるのかを明らかにするためである。また、先行研究の論文とのギャップがあるので、それをこの論文で説明したい。本論文の目的はそれぞれの接尾辞の構造、派生語の意味、またそれぞれの接尾辞は入れ替えることができるか解き明かすことである。

この論文で使った方法論は「Deskriptif Kualitatif」という方法論である。研究する順番は三つある。最初は資料を集めて、次は資料を分析して、最後に分析の結果を報した。データを得る方法は学研小学国語辞典や「takoboto.jp」や「ejje.weblio.jp」でデータを採取して、集めることである。そして、集めたデータは「Agih」法と「Teknik Bagi Unsur Langsung」法と「Substitusi」法で分析する。

接尾辞「-調, -風, -流」は様式の意味を表している。接尾辞「-調, -風, -流」は替えるときもあり、できないときもある。筆者が 三つの接尾辞「-調, -風, -流」を分析したあと、三つの接尾辞はそれぞれの意味を持って、類似点と相違点があることが分かった。

接尾辞「-調」はだいたい漢語の名詞に結語する。例えば「軍服調、民謡調、美文調」などである。「-調」は外来語の名詞に結語することもできる。例えば「ビクトリア調」である。「-調」はスタイルや特殊性を示す。

軍服 + -調 → 軍服調

Gunpuku + (接尾辞) → Gunpukuchou

上記のデータの「軍服調」は、「軍服」は名詞であり、漢語である。

「軍服」に「-調」を付けて「軍服調」となり、典型的な軍服のスタイルや性格を示す。「軍服調」は外観を指すこともあるので、「-風」で置き換えることができる。

接尾辞「-風」はだいたい漢語の名詞に結語する。例えば「学生風、西洋風」などである。「-風」は和語の名詞に結語することもできる。例えば「田舎風」である。「-風」は通常、**可視的なスタイルを示す**。

田舎 + -風 → 田舎風

Inaka + (接尾辞) → Inakafuu

上記のデータの「田舎風」は、「田舎」は名詞であり、和語である。

「田舎」に「-風」を付けて「田舎風」となり、**田舎の風貌を示す**。

「-風」の「田舎風」は「-調」や「-流」で置き換えることができない。

接尾辞「-流」はだいたい漢語の名詞に結語する。例えば「西欧流、自己流、当世流」などである。「-流」は**何かをするための技術や方法を示す**。

西欧 + -流 → 西欧流

Seiou + (接尾辞) → Seioruyuu

上記のデータの「西欧流」は、「西欧」は名詞であり、和語である。

「西欧」に「-流」を付けて「西欧流」となり、**西欧で使われている手法**

や技法を示す。「一流」の「西欧流」は「一風」に置き換えることができ、「西欧」の風貌を示す。

分析の結果に基づく、接尾辞「一調, 一風, 一流」の類似点はスタイルの意味を示す。しかし、それぞれの接尾辞の相違点もある。接尾辞「一調」はスタイルの意味を示すだけでなく、特殊性を示すこともできる。接尾辞「一風」は通常、可視的なスタイルを示す。また、接尾辞「一流」は何かをするための技術や方法を示す。